

Expo 2005 Aichi
スペイン パビリオン
PABELLÓN DE ESPAÑA

Contemporary Spanish Photography

TEN VIEWS

Diez Miradas

スペイン現代写真家10人展

19 Marzo 24 Abril 2005
March April 2005
Tokyo Metropolitan Museum of Photography

spain in japan

主催: スペイン パビリオン PABELLÓN DE ESPAÑA 共催: 東京都写真美術館 協賛: Lunwerg社

東京都写真美術館
(恵比寿ガーデンプレイス内) 地下1階展示室

Isabel Muñoz ①

イサベル・ムニョス

長年に渡り熱意を持って活動している写真家。最も高貴な写真処置を必要とするプラチナプリントにおいて、冒険的で難しい手法に熟練したスペシャリストの一人となった。今日の写真における最も美しいイメージの幾つかを創出し、それは最も繊細で熟慮の価値を備えている。

Ricky Dávila ②

リッキー・ダビラ

スペイン写真界で例外的な存在の写真家。その情熱的な仕事への献身が生み出した多くの素晴らしいファッション写真やポートレート作品は、まだ若いにもかかわらず、彼を現在のスペイン写真界における重要な立場に置いた。

Alberto García-Alix ③

アルベルト・ガルシア＝アリックス

4半世紀にわたり、個人的にもしくは感情的に近い人々のポートレートを通して、自分自身とその時代の魅力的な年代記を綴った。彼らは、ガルシア＝アリックスの賢明で正直、そして情け深い眼差しによって仲間として認められた人々、愛すべきそして心傷ついた人々である。

Miguel Trillo ④

ミゲル・トリリョ

スペインの歴史上魅惑あふれる時代の傑出した目撃者である彼は、ここ30年間のスペイン都市生活者の変容を執拗に記録してきた。これらの写真は、フランコ時代の汚れた遺産から現代の狂乱に至るまでの、目撃する社会の変化を映し出している。

José Manuel Navia ⑤

ホセ・マヌエル・ナビア

スペインの新しい写真界を代表する一人。表現上の効果と精密さを絶えず求めていく中で、その多大なる努力と献身によって、自らの表現手段に磨きをかけたものの一人でもある。深い技術的知識により、色彩の大家となったが、広範な知識と確固とした常識も備えている。

展覧会キュレーター Publio López Mondejar プブリオ・ロペス・モンデハル

スペインで最も権威ある写真史家であり、非常に長い経歴を持つ。ジャーナリズムに携わり、スペインの様々な媒体の文化欄に寄稿してきた。ジャーナリストとしてロンドンに渡り、『エミグランド』誌を創刊。1975年スペインに帰国し、1982年から1984年まで、『カルタ・デ・エスパーニャ』編集長。1978年に写真史分野での活動を開始。『人生のポートレート』(1980)は、スペインで初めて発行された写真史に関する本であった。様々な写真に関する著作を発表。1989年には四部作『記憶の源』が発行され始め、『19世紀スペインの写真と社会』(1989)『スペインの写真と社会1900-1939』(1992)『フランコ時代のス

Contemporary Spanish Photography

TEN VIEWS
Diez Miradas

スペイン現代写真家10人展

Expo 2005 Aichi
スペイン パビリオン
PABELLÓN DE ESPAÑA



Ramón Masats ⑥

ラモン・マサツ

同世代の写真家の中で最も偉大な一人であり、また並外れた創作力、形式的な慣例主義を打ち破る大胆さ、そしていくつかの本当に素晴らしい資質に恵まれた結果、純粋芸術写真の路線を継承する第一人者。ほぼ半世紀にわたって、傷つき分断され弱体化したスペイン、しかしまだ魅力と神秘を残しているスペインの全貌を、その類まれな才能でカメラに収めてきた。

Xurxo Lobato ⑦

シュルジョ・ロバト

スペインにかつて存在しなかった偉大な写真家。情報の取り込みによる弊害を克服できる類まれな能力を持った写真家の一人でもあり、その作品を12冊の本で発表しているが、そこには生まれ故郷ガリシアの多様な姿が表されている。現代と伝統との狭間で、故郷に共存する数十の世界を映し出したものと言える。

Juan Manuel Castro Prieto ⑧

フアン・マヌエル・カストロ・プリエト

最も才能に恵まれた写真家の一人。その写真はいつも魅惑的で、日記の頁のように、他のものと並べたときに、最も重要で深遠な意味を負う。彼の作品には文学の近似性がみられ、ある時期の様々な場所における連続した経験の魅力的な物語を形成している。

Cristina García Rodero ⑨

クリスティアーナ・ガルシア・ロデロ

国際的に最も著名なスペインの女性写真家であり、絶えず繰り広げられる人生の光景に無意識に身をゆだねながらも、賢明さと決然とした誇りを持った謙虚さに基づき、並外れた視点も持って観察することを学んだ写真家。

José Ignacio Lobo Altuna ⑩

ホセ・イグナシオ・ロボ・アルトゥナ

自由で正直、そして類まれな自信と精神力から生まれる大胆さに支えられた、決然とした大局観を持った作家。見え透いたもの、グロテスクなもの、根拠のない挑発、自分のモラルや美学と相容れないイメージは常に避けている。

ペインの写真と社会』(1996)の3巻がすでに刊行済みである。この3巻は複数の言語に翻訳され、国際的に大きな反響をもたらした。また、数多くの展覧会のキュレーターを務め、『スペインとラテン・アメリカの写真100年』(1984)『クリフォード撮影のイサベル2世水路工事外観』(1988)『船の誕生』(1993)といった様々な作品の刊行に携わった。文化省特別賞(1989・1999)、アルル国際写真展の大賞(1986)『バルトロメ・ロス』賞(1999)などの賞が、写真分野における長く創造力に富んだ彼の業績に対して与えられている。

2005年3月19日[土]~4月24日[日]

会場: 東京都写真美術館(恵比寿ガーデンプレイス内) 地下1階展示室

開館時間: 10:00~18:00(木・金は20:00) 入館は閉館の30分前まで 月曜休館(ただし、3月21日[月・祝]は開館、翌3月22日[火]は休館)

観覧料: 一般600(480)円 学生500(400)円 中・高校生・65歳以上400(320)円 ()内は20名以上の団体料金・小学生以下と、障害をお持ちの方とその介護者(2名まで)は無料

65歳以上は第3水曜日無料 ※証明できるものを提示頂く場合があります。

主催: スペイン パビリオン PABELLÓN DE ESPAÑA 共催: 東京都写真美術館 協賛: Lunwerg社

お問い合わせは: スペイン パビリオン Tel: 052-775-7477

東京都写真美術館

東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

TEL: 03-3280-0099 http://www.syabi.com

■JR恵比寿駅東口より徒歩7分 ■東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩10分

